

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	212人	社会	212人	数学	212人
	理科	212人	英語	212人		

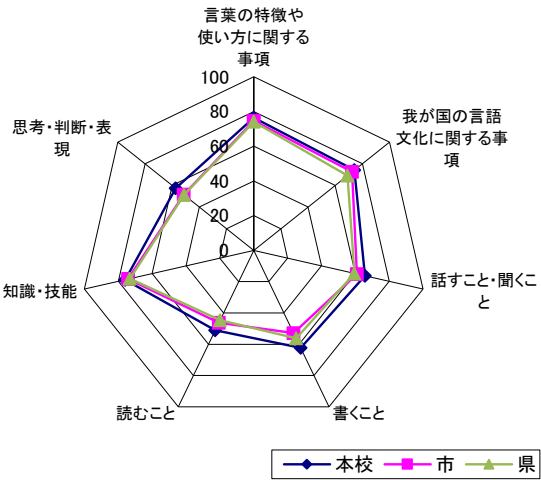
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.4	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	74.1	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	65.7	60.9	59.5
	書くこと	62.3	52.8	56.2
	読むこと	51.0	46.2	44.5
観点	知識・技能	75.9	74.2	73.1
	思考・判断・表現	57.5	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

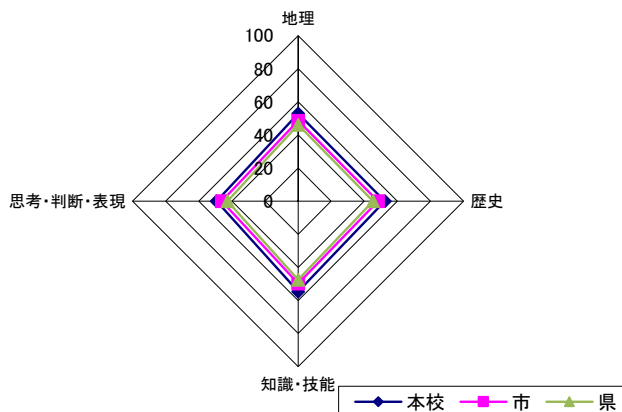
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○正答率は、市平均を1.7ポイント、県平均を2.3ポイント上回っている。 ○漢字の読みに関しては、3問中2問がほぼ全員正答であり、漢字小テストを継続的に行っていることが効果的であると考えられる。 ●漢字の書きとりや敬語の働きについての理解に課題が見られる。	・今後も漢字の小テストを継続して行っていく。特に書きについては、間違いやすい漢字について、漢字の部首や書き順など、さまざまな角度からの説明を加えていく。また、書写においても文字の形を意識して取り組ませる。 ・正しい敬語の使い方について、日頃から意識させる。 ・辞書を使つての語句の意味調べの活動とともに、話や文章の内容に即した意味を確認する指導も行う。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は、市平均を1.6ポイント、県平均を5ポイント上回っている。 ○漢字の行書の基礎的な書き方が理解できている。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書くことにやや課題が見られる。	・今後も、古文以外にも詩や短歌等の単元で歴史的仮名遣いに触れる場面があるときには、正しく読めるか確認をしたり、小テストを行ったりすることを通して、常に言語文化を意識させる。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに確実に直せるよう繰り返し復習を行うとともに、言葉の意味などにも着目させていきたい。
話すこと・聞くこと	○正答率は、市平均を4.8ポイント、県平均を6.2ポイント上回っている。 ○自分の考えを相手に伝えるために有効な話の構成や順番を考えることができています。説明的文章の単元で構成の確認をしていることが生かされていると考えられる。また、必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができています。 ●話し合いの中で話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめることが苦手であると思われる。	・説明をするときや自分の考えを伝えるときに、相手に納得してもらえるように、数値や自分の体験などの具体的な根拠を挙げる練習をしていく。 ・相手の話をよく聞き、相手が伝えたいことを正しく理解するために、メモをしたり捉えた内容が違っていないか確認をしたりするように指導をする。
書くこと	○正答率は、市平均を9.5ポイント、県平均を6.1ポイント上回っている。 ○自分の考えを指定された条件に合わせて表現しようとすることはできる。単元ごとに振り返りを書く活動を行っていることが効果的だと思われる。 ●自分の考えを根拠を明確にして書くことや構成や文字数を踏まえて文章を書くことが難しい。	・今後も単元ごとに初発の感想や振り返り、意見文など、授業の中で自分の考えをまとめる活動を取り入れる。また、意見文では自分の考えを根拠を明確にして書くことを意識させる。 ・条件に合わせて書く練習を行っていく。読み手が理解しやすいよう構成メモを考えてから書くように指導をする。
読むこと	○正答率は、市平均を4.8ポイント、県平均を6.5ポイント上回っている。 ○説明的文章において、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができています。文学的文章の内容について叙述を基に捉えることができています。 ●説明的文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることが難しい。文学的文章の場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることが苦手である。	・説明的文章においては、段落ごとの内容を捉える活動を行いながら、文章の構成について復習をして確認をする。 ・基本的な構成についての理解を定着させ、構成の観点から文章の内容を読み取る練習をする。 ・文学的文章では、文章の描写に着目し、関連付けながら登場人物の人物像や心情の変化、登場人物同士の関係を丁寧に読み取らせる。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	52.9	48.6	46.2
	歴史	52.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	54.6	49.8	47.5
	思考・判断・表現	49.2	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

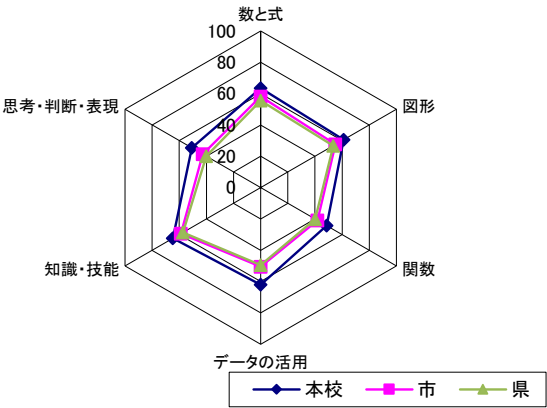
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○地理的分野全体として、市平均を4.3ポイント、県平均を6.6ポイント上回っている。 ○問題別では、市、県の平均を上回っている設問が多い。特に気候に関する問題の正答率が高い。また、資料やグラフの読み取りもできており、読み取ったことから記述する問題についても正答率が高かった。地理的分野において基礎的な力は身に付いているといえる。 ●三大陸と六大洋の名称と位置関係に関する問題において、市や県の平均を下回っている。名称がわかっている、場所が一致していないと考えられる。 ●資料とともに説明文が多くなると正答率が下がっている。	・基本的な語句については理解している。知識を身に付けることだけではなく、さらに資料を読み取る力を身に付けさせていきたい。複数の資料を読み取り考察する力はまだ弱い。複数の資料を考察して表現する機会を増やしていき、思考・判断・表現の力を伸ばす。 ・日本の島々や世界の大陸や国などの位置関係が理解できていない可能性がある、地図帳を用いて、位置関係を理解させる。 ・文章を読む能力が低い。文章を読み取る力を身に付ける必要がある。
歴史	○歴史的分野全体として、市平均を4.1ポイント、県平均を7.1ポイント上回っている。 ○ほとんどの問題で、市や県の平均を上回っている。特に縄文時代や古代文明に関する問題では、市や県の平均を大きく上回った。 ●縄文時代～古墳時代の問題については正答率が高いが、平安時代～鎌倉時代の問題について正答率が低くなっている。特に鎌倉時代の正答率が低く、理解が不十分である。 ●並び替えの問題が苦手な傾向がある。市や県の平均を上回ったが、正答率が14.2%とかなり低くなっている。また、時代の中での政治の変化について問われる問題についても正答率が低く、時代をおおまかに大観することができていない。時代を通して歴史の流れを理解できていない傾向がある。	・各時代での有名な人物や、その人物に関する出来事などを結び付けていきたい。人物名がわかっている、何をした人なのか、どの時代に活躍した人か理解できていない可能性がある。時代を大観させられるような授業を展開する必要がある。 ・平安時代から出来事が増えていき、理解が追いついていない可能性がある、年表などを用いながら、出来事を整理させて理解を深めさせる。 ・並び替えに関しては、問題として練習させていく。また、時代の流れや変化を理解できていないことが考えられるので、各時代の出来事を「AからBに変化し、Cとなっていた」などと時代の特徴についておおまかに説明できるようにさせる。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.5	58.2	55.5
	図形	61.1	55.1	53.5
	関数	48.6	41.9	40.2
	データの活用	62.0	50.5	49.4
観点	知識・技能	64.7	58.8	57.3
	思考・判断・表現	50.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

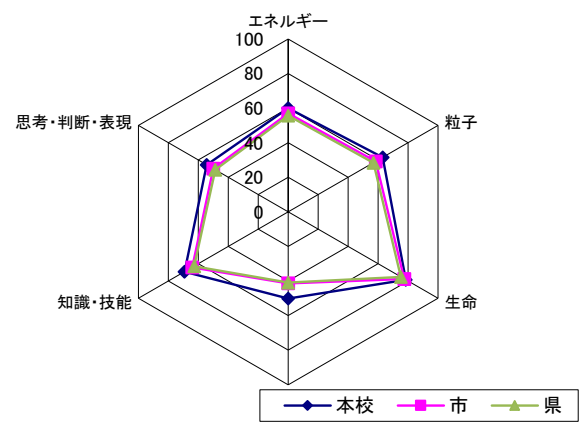
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は、市平均を5.5ポイント、県平均を8ポイント上回っている。特に、与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する問題の正答率は、市平均を10ポイント、県平均を10.8ポイント上回っている。 ●四則の混じった計算の問題の正答率が市平均を2.8ポイント、県平均を1.3ポイント下回っている。	・四則計算の順序を忘れてしまっている生徒がいると思われるため、何度も繰り返し指導していきたい。文字式の計算や1次方程式の計算については、理解できている生徒が多いが、説明や記述の問題については、理解しにくい傾向にある。あきらめずに繰り返し多くの問題を解かせ、慣れさせる。
図形	○正答率は、市平均を6ポイント、県平均を7.6ポイント上回っている。特に、垂線の作図については、市平均を13.8ポイント、県平均を15.2ポイント上回っている。 ●ねじれの位置関係について正しく選ぶ問題の正答率が、県平均を0.6ポイント下回っている。円柱の側面積を求める式について、あてはまる言葉を答える設問の正答率が38.7%と低い。	・ねじれの位置関係の問題については、どのような図形でも理解できるように、多くの場面の問題を解き、慣れることが必要であると思われる。 ・空間図形の表面積・体積の求め方について、平面図形から導かれることを再確認させ、復習として、多くの問題を解かせる。
関数	○正答率は、市平均を6.7ポイント、県平均を8.4ポイント上回っている。与えられた表をもとに、正しいものを選ぶ問題の正答率は、市平均を15ポイント、県平均を15.9ポイント上回っている。 ●反比例の式を選ぶ問題の正答率が市平均を0.2ポイント下回っている。また、与えられた表をもとに、比例のグラフをかく記述の設問は、17.0%と非常に低い。	・関数の意味を理解することは非常に重要であるため、関数であるものそうでないものの、具体例を1次関数の授業の中で取り上げる。 ・関数のグラフについては、ソフトなどを用いて、視覚的に示すことで理解を促していく。また、式と表とグラフを関連付けて指導していく。 ・説明する力については、授業の中で対話できる場面を取り入れ、少しずつ身に付けさせる。
データの活用	○正答率は、市平均を11.5ポイント、県平均を12.6ポイント上回っている。全ての設問で市平均・県平均を上回っている。 ●データの傾向について、相対度数を使って説明する設問の正答率が約4割であり、無回答が約4割と高い。	・代表値の意味と使い方を理解させる。また、度数分布表やヒストグラムを完成させる際には、データを正確に処理する指導もしていく。 ・関数同様、説明する設問に弱い傾向があるので、データの特徴を捉え、自分なりの考えをまとめ、説明する機会を設ける。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	60.0	57.0	55.7
	粒子	63.0	58.6	56.9
	生命	78.5	77.5	75.2
	地球	50.1	41.4	40.9
観点	知識・技能	69.2	64.1	62.8
	思考・判断・表現	54.4	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

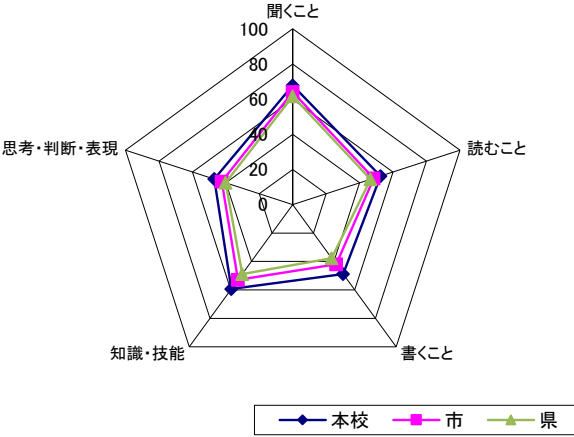
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は、市平均を3.0ポイント、県平均を4.3ポイント上回っている。特に「光の反射の道すじを図する」の問題に関する正答率は、県平均より、12.7ポイント上回っている。 ●「2つのばねの長さを求める実験の誤った考察を正しく書き直す」問題に関する正答率は、県平均より上回っているものの、正答率は23.1%と低い。	・多くの生徒は観察・実験に意欲的に取り組んでいる。目的とそのために必要となる条件について意識させながら実験に取り組ませたり、課題解決のためにどのような実験を行えばよいのかを考えさせる機会を多くつくったりすることで興味・関心をより高める。 ・力の大きさとばねののびの関係を計算し、グラフ化することはできているが、その事象の理解は不十分である。振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。
粒子	○正答率は、市平均を4.4ポイント、県平均を6.1ポイント上回っている。特に「酸素であることをたしかめる方法を選ぶ」に関する正答率は、県平均より、9.0ポイント上回っている。 ●「水溶液の温度を下げて結晶がほとんど現れない理由を答える」の問題に関する正答率は34.4%と低い。	・実験を通して実験器具の操作方法、注意事項を正しく習得させる。 ・溶解度曲線のグラフの見方や活用の仕方を身につかせ、再結晶の析出量の計算は最終的には減法である点を強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。 ・物質は粒子でできているという粒子概念を持たせられるよう、具体例をICT機器を用いて視覚的に伝えるなど、印象に残り定着するような工夫をする。
生命	○正答率は、市平均を1.0ポイント、県平均を3.3ポイント上回っている。特に「単子葉類に分類される植物を選ぶ」に関する正答率は、県平均より、6.4ポイント上回っている。 ●「ライオンとシマウマの犬歯を選び、ライオンの犬歯が獲物をとらえることに適していることを答える」の問題に関する正答率は6%と低い。	・重要語句や基礎・基本的な内容などの既習事項から考えを深める活動を多く取り入れる。 ・観察・実験結果を踏まえて何が言えるかということを、実際の実験・観察後の考察や振り返りで記述、図示させ、考えさせる場面を意図的に増やし、応用力や思考力の向上を図る。
地球	○正答率は、市平均を8.7ポイント、県平均を9.2ポイント上回っている。特に「ゆれの名称と震度の階級の組み合わせを選ぶ」に関する正答率は、県平均より、16ポイント上回っている。 ●「石灰岩の名称を答え、二酸化炭素の発生方法を選ぶ」問題の正答率は、県平均より上回っているものの、正答率は23.1%と低い。	・地震の速さと震源からの距離の関係を計算して表すことができるが、その事象の理解は不十分である。振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。 ・地層の重なり方、広がり方についての規則性を見いだして理解させるために、映像や資料を用いて離れた地点の幾つかの地層や剥離標本を比較する等問題を見いだし、火山灰層や砂層などを手掛かりに解決させる授業を展開していく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	67.8	64.0	61.6
	読むこと	52.5	48.4	46.6
	書くこと	48.8	42.0	37.8
観点	知識・技能	59.3	52.9	48.9
	思考・判断・表現	46.9	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は、市平均を3.8ポイント、県平均を6.2ポイント上回っている。特に「対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ」に関する設問の正答率は市平均、県平均ともに大きく上回っている。 ●「対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ。」の正答率が、他の項目と比較しても県との差があまりない。	・授業において教師がほぼ英語で指示を出したり、導入で生徒と積極的に英語でインタラクションをすることにより、英語を聞き理解する能力を育成したい。 ・まとまりのある英文を聞かせ、思考し判断することができるよう機会を授業で意図的に作る。
読むこと	○正答率は、市平均を4.1ポイント、県平均を5.9ポイント上回っている。特に「対話とグラフから必要な情報を読み取り、適切なクラスを選ぶ」問題では県よりも8.7ポイント以上正答率が高くなっている。 ●英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題が、他の項目と比較しても県との差があまりない。	・生徒が本文と資料の関連を把握できるように、グラフ等の資料の読み取りの前に教師がたくさんの情報を生徒インプットしたり、生徒がその情報をもとに内容を理解できる活動を取り入れる。 ・生徒同士で教え合いの機会を今まで以上に増やし、自信をもって深い思考につながるように支援する。
書くこと	○正答率は、市平均を6.8ポイント、県平均を11ポイント上回っている。特に「与えられた情報に基づいて、正確に書く」問題の正答率は県と比較して10ポイント以上も正答率が高い。 ●記述式の問題では、市や県の平均に比べ無解答率が高い。しかし、学校全体の正答率が県や市よりも高い。つまり本校の生徒は、英文を書く力が特に二極化していることが分かる。	・英語の語順や文法のきまりをしっかりと理解させることで、英作文の能力を向上させる。 ・常学習でライティング活動を取り入れ、短時間で書く練習を繰り返して行わせる。そしてよく書けた生徒の例文を提示し参考させることによって、具体的にどんな英文を書いたらよいのか、どんな内容を書いたらよいのかを示し、学び合いから書く能力の向上を図る。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校が宇都宮市、栃木県の肯定回答より5ポイント以上高かった質問

- (3)「家で、学校の授業の予習をしている」55.1%は市より8.5ポイント、県より12.3ポイント高い。
(4)「家で、学校の授業の復習をしている」76.6%は市より5.5ポイント、県より4.5ポイント高い。
(6)「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」65.0%は市より5.0ポイント、県より8.0ポイント高い。
(8)「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」3時間以上、2時間以上の合計回答48.1%は、市より22.1ポイント、県より24.1ポイント高い。
(9)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらい時間、勉強をしますか」4時間以上、3時間以上の合計回答33.2%は市より18.4ポイント、県より21.0ポイント高い。
(22)「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」96.3%は市より4.3ポイント、県より7.9ポイント高い。
(24)「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」68.7%は市より5.7ポイント、県より6.0ポイント高い。
(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」85.1%は市より4.9ポイント、県より3.7ポイント高い。
(43)「毎日、朝食を食べている」96.7%は市より5.3ポイント、県より5.4ポイント高い。
(48)「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」4時間以上、3時間以上合計20.1%は市より7.5ポイント、県より7.7ポイント低く、1時間より少ない、全くしない合計36.0%は市より6.2ポイント、県より8.3ポイント高い。
(49)「ふだん、1日どのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」4時間以上、3時間以上合計11.7%は市より6.2ポイント、県より5.4ポイント低い。
(66)「家の人と学習について話をしている」89.7%は市より5.9ポイント、県より11.8ポイント高い。
(74)「今回の調査で、英語の問題を解く時間は十分でしたか」74.3%は市より4.5ポイント、県より7.1ポイント高い。
(76)「社会の授業の内容はよく分かりますか」84.1%は市より5.9ポイント、県より3.5ポイント高い。
(81)「社会の学習は好きですか」68.2%は市より6.3ポイント、県より5.1ポイント高い。
(85)「美術の学習は好きですか」76.1%は市より4.9ポイント、県より4ポイント高い。
(93)「社会の学習は、将来のために大切だと思いますか」85.1%は市より4.4ポイント、県より6.4ポイント高い。
(99)「技術・家庭の学習は、将来のために大切だと思いますか」93.9%は市より5.0ポイント、県より4.8ポイント高い。

○学校の授業時間以外や土曜日や日曜日など学校が休みの日に、「自主学習ノート毎日1ページ以上」の取組などを通して、授業の予習や復習だけでなく、自分で考えた勉強をしている生徒が多いといえる。

○学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う生徒や、学習に対して、自分から進んで取り組んでいる生徒が多いといえる。特に、社会の授業の内容がよく分かり、社会や美術の授業が好きで、社会や技術・家庭の学習は、将来のために大切だと思う生徒が多いといえる。

○授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒が多いことから、教職員が授業の振り返りを実施している成果がみられるといえる。

○毎日、朝食を食べている生徒が多いことから、食に関する指導や、学年だよりや学年朝会、学年保護者会などを通して朝食の大切さと質の向上について情報提供や啓発を続けた成果がみられるといえる。

○ふだん、3時間以上テレビゲームをしたり、通話やメール、インターネットをしている生徒が少ないことから、家庭でテレビゲームや携帯電話、スマートフォンについて、ルールを決めて使用しているといえる。

○家の人と学習について話をしている生徒が多いといえ、保護者は学習に対して関心が高く、生徒との話題にしているといえる。

●本校が宇都宮市、栃木県の否定的回答「どちらかといえばいい」「いいえ」合計より5ポイント以上高かった質問

- (18)「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」合計38.8%は市より3.6ポイント、県より5.0ポイント高い。
(34)「クラスは発言しやすい雰囲気である」合計27.6%は市より7.8ポイント、県より8.3ポイント高い。
(38)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」合計36.9%は市より9.7ポイント、県より8.6ポイント高い。
(80)「国語の学習は好きですか」合計43.0%は市より7.5ポイント、県より8.9ポイント高い。
(86)「保健体育の学習は好きですか」合計31.8%は市より6.3ポイント、県より8.6ポイント高い。
(96)「音楽の学習は、将来のために大切だと思いますか」合計51.9%は市より3.3ポイント、県より5.6ポイント高い。
(104)「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」合計61.2%は市より7.2ポイント、県より9.2ポイント高い。
●疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい、授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる、漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている生徒が少ないといえ、分からないことを自分から進んで調べたり聞いたりして、分かろうとする生徒が少ないといえる。
●クラスは発言しやすい雰囲気であると感じている生徒が少ないといえる。
●国語、保健体育の学習が好きな生徒や、音楽の学習は、将来のために大切だと思う生徒が少ないといえる。

・各質問の肯定的回答と否定的回答別の教科の合計得点平均差による生徒の傾向

- (5)「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「はい」「いいえ」平均差10.1点
(13)「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」「はい」「いいえ」平均差27.6点
(20)「難しい問題に出会ったとき、よりやる気が出る」「はい」「いいえ」平均差12.2点
(21)「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「はい」「いいえ」平均差10.4点
(28)「授業の中で目標が示されている」「はい」「いいえ」平均差14.9点

【今後の指導の工夫】

- ・授業の中で目標を明確に示して、生徒に知らせることで、より一層、学習内容の理解と定着を図る。
- ・授業で分からないことは先生に聞くことができる雰囲気づくりを行い、疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたり、漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書やChromeBookを使って調べたりして、分からないことを自分から進んで調べたり聞いたりして、分かろうとする生徒の育成を図る。
- ・難しい問題に出会っても、できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしたり、あきらめずにやる気を出して取り組んだりできるような支援の手立てを工夫する。
- ・各教科の学習が将来のために大切だと思えるように、知識・技能だけでなく、見方・考え方をふまえながら、振り返りの場面などを活用して、これからの社会生活との関連を伝えるように工夫する。
- ・家で、テストで間違えた問題について勉強をするように呼びかけたり、ちょうどよい量の宿題を出したりなどして、学習内容の定期的な振り返りができるように支援を工夫する。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1) 学習規律の徹底	・地域学校園で取り組む「学習の約束」の実践 ・各教科における授業の約束の設定と指導	・生徒達は学校の決まりを守り、学習に対して自分から取り組んでいる生徒が多いことが結果から読み取れる。
(2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	・各教科における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・身に付けるべき学習内容の確実な習得を目指す、単元や題材ごとに学習内容を復習させる場の設定	・「授業の内容がよく分かりますか。」という質問(75～79)では、教科に多少の差は生じているものの、全てにおいて肯定的割合が多いことから、基礎基本の定着の様子が見て取れる。また、家庭で学校や塾の宿題以外に自分で考えた学習に取り組んでいる生徒が多く(質問6)、県のポイントを8ポイント上回っている。そのことから、生徒が自主的に考えた家庭学習に取り組み、基礎基本の定着に努めていることがわかる。
(3) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	・授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、学習内容や思考過程を振り返ったりする場の設定 ・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実 ・授業力向上に向けた「一人一授業」及び授業研究会の実施	・授業は、クラスの友達との間で話し合う活動を良く行っており(質問27)、考えを発表する機会が与えられている(質問26)ことがわかり、グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している生徒の肯定的割合も多くなっている。しかし、疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたいと思っている生徒が多くないが、(質問25)本やインターネットなどを利用して情報を得て、課題に取り組もうとしている姿勢がうかがえる。(質問26)
(4) 個に応じたきめ細やかな指導の充実	・基礎的・基本的な知識の定着を目指すAIDリルの活用・タブレット端末を活用した個別最適化された学習の実践 ・発達の段階や各教科の実態に応じた適切な宿題や自主学習ノートの活用 ・学習支援「ステップアップ学習」の実施	・宿題に関する質問(13～15)では、肯定的回答が多く、生徒達の実態に合った適切な宿題だだされていることがわかる。 ・「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる(質問38)」では、市や県のポイントを下回っていることから、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けながら、生徒達への個別支援に努めていかなければならないことがわかる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「クラスは発言しやすい雰囲気である(質問34)」「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる(質問38)」の肯定的回答が、市、県より下回っている。このことから、授業で分からないことがあるときは先生に聞くことができる雰囲気づくりを行うことが必要である。	・生徒の自己理解を促進し、身に付けた知識や技能を生かせる活動の充実 ・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実	自分の分からないところがどこであるかを分けるような、個に応じたきめ細やかな指導をしていく必要がある。また、学級活動・生徒会活動や学校行事を通して他者との関わりの中で自己理解を高めたり、自信をもって自分の考えを発表したりする活動に取り組める環境づくりや雰囲気づくりを行う。